

ママライターのリアル家族が体験ルポ

今年の夏はキャンプに行こう!

「アウトドアって一度はやってみたい!」と思ってもなかなか実現できないほどのひとつでも、思い切って一歩踏み出すと、楽しいだけでなく、子供たちの成長を感じられる素敵な思い出も手に入れます。今年の夏は、キャンプにチャレンジしてみては?



text&illustration & reportage AKIKO NONAKA
special thanks to NORIKO YAMADE (KOTSU SHIMBUNSHA)

Let's go to a camp!

前日まで

準備する物のリストを見ても、アウトドア用品コーナーに行っても、そもそも「どう使うのか?」「本当に必要なのか?」がピンと来ない。買い物も持ち物も最小限にしたつもりだったが、家族4人分ともなるとプチ引越しレベルの荷物量。自分たちが車に乗れるかも危うい予感、どう取捨選択したらいいのか悩んだ前夜だった。



第11回 『みんなのキャンプ教室』 体験ルポ

“アウトドア初心者マーク”の夫と私、外遊び大好きな5歳男子と2歳女子。1泊2日の『みんなのキャンプ教室』に参加して、家族4人で新緑の中キャンプデビューを果たしてきました。



●ケネズ・ファミリー・ビレッジ

埼玉県飯能市上名栗 3196
TEL / 042-979-0300
WEB <http://www.kfv.co.jp/>
料金 入場料大人700円、子ども(3歳~小学生)350円 テントサイト 3000円~宿泊棟 8000円 IN 11時30分 OUT 11時 アクセス 圏央道青梅ICから岩蔵街道~成木街道を経て名栗、秩父方面へ約30分

●IFCC インターナショナルファミリーキャンプクラブ

子育て世代のファミリーを中心に、初心者からベテランまでキャンプ好きの人々が集まるサークル。ファミリーキャンプの楽しさを伝える『みんなのキャンプ教室』ほか「子どもが主役のキャンプ」「ハロウィンキャンプ」などのイベントも開催している。
WEB <http://homepage2.nifty.com/ifcc/>
IFCC 事務局 TEL / 03-3938-7550

到着~夕食

最初の仕事は本日のマイホームとなるテント設営。小さな袋に収まっていたものが、家族4人が雨露しのげる空間に変化するのにビックリ。集合して開講式の後には、ベテランキャンパーによる講習会。高機能&実用的なアウトドア用品の説明、バーベキューコンロへの炭の並べ方のほか、燻製や美味しく焼けた野菜の試食会と盛りだくさん!



テントに興味津々、手伝いを始めた子どもたち。講習会では「温度差を作るため」炭火を斜めに置くワザなどを教えてもらった。





Camp
Debut!

ドキドキとピカピカの キャンプデビュー

「うわー気持ちいいね」

川面輝く清流、みずみずしい新緑、肌を撫でる爽やかな風。広々とした空の下で子どもたちの顔もピカピカに輝いている。

五感が優しく目覚めるような、抜群の自然環境で開催されたIFCC主催の『みんなのキャンプ教室』。家族のキャンプデビューをサポートし、家族だけで行けるキャンプの基本を1泊2日で身につける事を目的とした教室だ。

受講者は11家族41人。「震災をきっかけに」「男の子が生まれたので」など参加動機はさまざまだが、共通な思いはキャンプの基礎を学びたいという強い意識だ。ペアを組む指導者（日本オートキャンプ協会の公認インストラクター）にノウハウを伝授してもらいながら、身体で技術を学んでゆく。テント設営にサイトのセッティング、夕食の準備、炭火の置き方。ひとつハードルを越える度にキャンプへの自信がついてゆく！

幼児連れにも嬉しいゆったり& 充実プログラム

幼児連れに嬉しいゆったりスケジュールながら、プログラムも充実していた。1日目の夜はたき火を囲んでの懇親会、2日目には水生生物を探す川遊び。夕朝食のメニュー&食材も準備してくれる。次回、家族だけで来る時は、長い夜の過ごし方や昼間の遊び方など、すべて自分たちで考えなければならぬ。技術だけではなく、楽しみ方のヒントも学べる貴重な1泊2日だった。

親子の蜜月期だからこそ、 キャンプを楽しみたい！

IFCC会長の明瀬さんの言葉が印象に残っている。「家族みんなでキャンプを楽しめるのは長くて5年」次第にスポーツや習い事で忙しくなり、友達との時間が大切になって行く子どもたち。まだピンとこないけれど、今この瞬間、貴重な時間を過ごしている事を意識しておきたい。

DVD観たい、おやつ食べたい。そんな事を言う暇がないくらい、遊びと探検に熱中していた息子と娘。自然の中では心が広くなれるのか、夫も私もガミガミ言わなかったなあ。帰宅してすぐ、カレンダーを見ながら息子が言った。

「キャンプ、次はいつにする？」

ママが楽をすべし

BBQ 燻製なし
男の料理 1-目覚めてもらう
かまど 自作な
鍋の 作り出しの
大変 豚汁なしのオススメ

親子
成功の
キャンプ

Let's go to a camp!

夜

夕食の準備、寝支度、後片付け……夕方からキャンプは大忙しだ。3家族共同で夕食を作りながらの「お湯ですすいでペーパーで拭けば、洗わなくても食器はキレイに」など、ママキャンパーの実用的なアドバイスが役に立った。夜は焚火と持ち寄った食べ物を囲んでの懇親会。「最高においしい！」息子は燻製玉子を夢中で食べていた。



防寒具を着込み、焚火を囲んでの懇親会。日中は夏のような陽射しでも、夜は冷え込むことを知る。いつもは寝支度をする時間帯に外にいられる非日常感に、子どもたちの目はキラキラ！



鳥の鳴き声と清流の音で目覚めた贅沢な朝。自分でソーセージを炭火で炙ったホットドッグが朝食だ。そして次回のキャンプで気持ちよく使えるよう、丁寧にテントを撤収する。サイトをきれいにした後、清流名栗川で川遊び。箱メガネで水中を覗きながら、カジカやハヤ、サワガニを捕まえたり、カエルの卵に驚いたり！

Let's go to a camp!

翌日



屋外ではシンプルな食事が美味しい。テントは干して湿気を乾かしてから収納、次のキャンプでもうまく片付けられるかな？